

# 扱い手通信

JAバンクは地域の扱い手を応援します

4

## 今月の話題

## サイズ混載で新規格 調製作業を省力化

### 野菜流通力ツト協

力

ツト野菜業者やJA全農などでつくる野菜流通カット協議会は、加工・業務用野菜の新たな出荷形態をまとめました。一つの段ボール箱やコンテナに、異なるサイズの野菜を詰める「混み規格」出荷が柱です。外観を気にし過ぎずに取引できる強みを踏まえ、産地での仕分けなどの作業を省力化し、労力を生産拡大に振り向けてもらう。3月中に正式発表し、産地への普及に乗り出します。

業務・加工用の取り扱いが多いキュウリ、白ネギ、トマト、キャベツ、レタス、ホウレンソウ、タマネギ、ニンジン、ダイコン、ハクサイの10品目が対象。近年の業務・加工用野菜の需要増加に対応するため、産地での効率的な出荷を促す狙いです。

サラダ需要がメインのキュウリでは、大き過ぎたり品質が極端に悪かつたりする

ものを除き、ひとまとめにして出荷することを提案。キャベツでは5~9玉級の大玉を中心に、サイズに関係なくコンテナに詰めて出荷することを求めます。

白ネギでは、市場出荷におけるように茎を切らないで調製する必要はないと指摘。2~3本まとめて茎の先端と葉を切りそろえる「両端切り」で、可食部分だけを仕入

れます。また、タマネギとニンジンは春先から夏にかけて業務筋が求める太物が少なくなるため、産地に太物の生産で協力を呼び掛けます。

協議会によると、提示した出荷形態は既に一部の契約取引で産地が取り入れています。木村幸雄会長は「産地としても規格と出荷形態の簡素化で、調製作業の効率が良くなり、栽培面積の維持・拡大につながる」と話し、普及に意欲をみせていました。

#### 業務・加工用野菜として提案する出荷形態

品目	出荷形態
キュウリ	A・B品のM・S級を計100本、10kgコンテナに詰める
キャベツ	5~9玉級の大玉が基本。10、15kgの段ボールか、300~350kg入りのコンテナに詰める
レタス	結球レタスは1玉400g以上の大玉、リーフ系は1株270g以上
白ネギ	葉と茎の両端をカットし、軟白部が25cm以上
ダイコン	L、2L級を用いる。葉と先端の両端をカットしたものも可

今が旬  
この言葉

米食味  
ランキング

日本穀物検定協会が実施する「米食味ランキング」は官能評価で「外観」「香り」「味」など6項目を採点し、総合点で上から「特A」「A」など5段階に格付けします。品種と栽培方法、天候が大きく左右します。2017年産の出品数は過去10年で最多となりました。三重県では「伊賀米コシヒカリ」が「特A」を取得しています。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

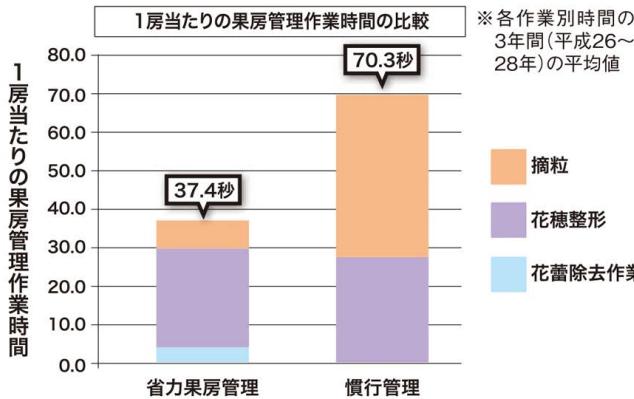
三重県農業研究所は、「シャインマスカット」を房ではなく粒で販売する「粒ブドウ」向けの省力果房管理方法を発表しました。房売り用の種なしブドウの栽培では、房の形を整える花穂(かすい)の整形や摘粒作業など、果房管理に作業時間がかかり、省力化が課題です。

「粒ブドウ」販売の場合、房作りが不要で、新梢の葉の枚数が7～8枚になった時に花蕾(かれい)除去器(商品名：テキライグシ)を使い、花蕾を減らすこと

で省力化が可能です。慣行管理と1房当たりの作業時間を比較すると、省力果房管理ではテキライグシを使った作業が加わりますが、全体として作業時間が短縮されます。果房管理に要する作業時間は慣行管理が1房あたり70・3秒に対し、省力果房管理では37・4秒と約47%の省力化が可能です。

この研究成果は「シャインマスカット」以外の品種でも、果粒販売を目指した省力栽培に適用できます。

## 粒ブドウ 果房管理の作業時間を47%省力化



お問い合わせ先 三重県農業研究所 伊賀農業研究室 0595-37-0211

(日本農業新聞より)

### JAみえきた 一足早い新茶摘み ハウス栽培物出荷

四日市市水沢町の安田製茶は3月8日、新茶の初摘みを行い、地元農家の女性がかすり姿で約20kgを収穫した。同町は他産地に比べ収穫時期が遅いが、安田長功代表の「三重の茶をより多くの人に知ってほしい」との思いから、収穫時期を早めるためにハウス内でポットを用いた茶の栽培方法を取り入れている。新茶の初摘みは今年で24回目。安田代表は「東海地方でも一番早い初摘みではないか」という。この栽培方法は東海地方でも珍しく、水沢地区では安田製茶だけが用いている。

(2018/3/9 ワイド1東海)

### JA三重中央 ASIAGAP認証 精米で県内初

津市で造園や土木施工を手掛けるイケダグリーンは2月下旬、自社生産の米(精米)で「ASIAGAP」認証を同県で初めて受けた。同社は認証へ向けて従業員の作業記録を徹底。勘や経験だけに頼るのではなく、書面や文字に落とし込み作業を「見える化」することで情報の共有や生産意識の向上につながっている。1月にもみと玄米で既に同認証を得ている。「ASIAGAP」はアジアへの普及も目指す日本発の農業生産工程管理(GAP)認証。主に輸出を目指す農家を対象にしている。

(2018/3/2 ワイド2東海)

### JAいがふるさと 伊賀米コシヒカリ 2年ぶりの特A評価

日本穀物検定協会が2月28日に発表した2017年産米の食味ランキングで、2年ぶりの特A評価を受けた「伊賀米コシヒカリ」。11年産から15年産まで5年連続「特A」だったが、16年産では逃していただけに、喜びもひとしお。食味向上部会の設置や土壤づくりといった生産者の努力が実った。食味ランキングは全国151産地銘柄を試験し、43銘柄が「特A」と評価。三重県内では「伊賀米コシヒカリ」が唯一の最高評価を受けた。

(2018/3/7 ワイド1東海)

# 農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を5年間軽減いたします。

JA/パンク利子補給制度 3年間と  
当JA金利引き下げ 2年間 指定の対象となります。  
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

$(\text{お借入金利}) - (\text{JA/パンク利子補給・金利引き下げ}) = \text{実質年} 0.2\%$

詳しくは、お近くのJA/パンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>  
平成30年4月現在

※JA/パンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下らないように調整されます。  
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJA/パンクまでお問い合わせください。  
※JA/パンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。



《金利情報》 平成30年3月19日現在

### 農業経営資金

変動金利  
年1.00%

固定金利  
年1.50～2.00%

※上記の借入利率は、代表的な利率であり、JAによって異なる場合があります。適用利率等の詳細はお近くのJA/パンク窓口までお問い合わせください。

### スーパーS資金

年1.5%  
(変動金利)